

会議状況等報告書

会議の名称	第1回大府市緑化推進委員会
日時	令和6年5月14日(火)9時30分～
場所	大府市役所 5階 全員協議会室
出席者	樋口委員、水谷委員、服部委員、只井委員、櫻井委員、深谷委員、小野委員、島田委員 岡村市長、伊藤部長、深谷課長、清水係長、鎌田主査、山田主任、奥村主事

1. 委嘱状交付

新任委員へ委嘱状の交付

2. あいさつ

市長あいさつ

委員長あいさつ

3. 議題

(1) 提案型緑花推進事業実績報告(令和5年度)及び企画提案書(令和6年度)について【資料1】事務局)---【資料に基づき中級団体について説明】---

委員) (子育て支援サークルあそびのいっぽの) ローメンテナンス花壇はどこまでを考えてローメンテナンスと言っているのか。フジバカマも植えていたが今後も植えることを検討しているのか。

事務局) 野菜くずを肥料にするなど、費用を安く抑えたり、再利用できるものを利用した活動と捉えている。フジバカマも植えているが花壇の維持がメインの活動になっている。

委員長) 各補助対象の活動内容は現地確認しているか。

事務局) 公園管理で外に出る機会が多いため、活動場所の近くを通ったときは確認している。

委員長) これらの団体の活動を SNS で発信、紹介することはできないか。

事務局) 今年度から各団体による SNS での発信を依頼していきたい。

委員) 事業明細を見ると同じ資材の金額に差があるが、事務局でどこか購入先を指示してはいないのか。

事務局) 特に指示はしていない。資材は各団体が工夫して購入しているため、差が出ると考えられる。

委員) 咲き終わった花の処分費用は事業報告にあがっていない。団体によってはかなりの量になると考えられるがどのように処分しているのか。

事務局) 補助対象が材料費などになるため、処分については把握していない。各団体が普段のゴミの日に処分していると考えている。

委員) 自分の団体では環境課のボランティアごみ袋を利用して花の処分を処分している。

事務局) ボランティア袋の活用はできるので、今後処分について各団体に案内していきたい。

委員長) SNS を利用した情報発信を各団体に依頼する際にゴミの処分等にも情報提供をしてもらいたい。

事務局) 今回いただいた意見を各団体に情報提供はできるようにしていく。

委員長) 報告書の記入ミスが多いため、わかりやすい記入様式にできないか。

事務局) 様式については事務局内でも意見が出ているため検討している。

委員) 今回報告をもらった中級団体で補助額が5万円に対して自己負担額が15万円となっている団体がある。何かこの差額を埋めるような活動をしているか把握しているか。

事務局) 他の参加者からの協力があるとは思いますが、具体的には把握していない。今年度は活動3年目になるので、来年度はその際に補助額の大きい上級団体での提案を促していきたい。

委員) おそらく地域のまちづくり協議会等が資金協力しているのではないかと思う。

事務局) 確かに収支については疑問点もあるため、団体には確認するようにする。

事務局) ---【資料に基づき上級団体について説明】---

委員) 参加者の確保が難しいと聞いているが、そのような相談は事務局に来ているか。

事務局) 具体的に相談されたことはない。ただ、団体によっては活動報告に名簿が添付されており、様々な年代の人が参加しているのが見受けられる。

委員) 報告書に領収書の提出は求めているか。

事務局) 現在は領収書の提出まで求めている。今後提出を検討する。

委員長) 活動団体の負担を少なくするために厳密な予算管理や会計報告は求めているのが現状である。

委員) 活動団体が作ったハナモモ育成調査のリストは確認しているか。

事務局) リストには個人情報も含まれているため、公表ができるものかはわからないが、一度内容は確認する。

委員長) 団体によっては収支の様子が分かりにくいので申請書に不足分の対処方法を記載してもらいたい。

事務局) ---【資料に基づきはじめの一步について説明】---

委員長) 今年度新しい団体の申請は無かったか。

事務局) 花いっぱい運動をしていた団体で活動の継続が難しいと相談を受けた団体がある。はじめの一步の方で活動の継続ができそうであるため、その団体には提案していく。

○提案型緑花推進事業実績報告(令和5年度)及び企画提案書(令和6年度)を承認

(2) 大府市緑の基本計画の実施状況について【資料2-1, 2-2】

(3) 令和6年度の事業計画について【資料3】

事務局) ---【資料に基づき(2)、(3)を合わせて説明】---

委員) つつじが市内どこを見ても咲いており、つつじが市の花であることを実感できた。大府みどり公園のミモザがきれいに咲き、色々な人からきれいだった報告を受けた。他市にはなるが古い木が倒れたというニュースを見たため、本市でも木の点検を検討して欲しい。矢戸川緑地の竹林に行った。良い所だと思ったため今後もっと市民に知ってもらえるような施策を考えて欲しい。

委員) 基本目標になっている生物多様性の促進の活動は所管課が環境課なのか水緑公園課なのかわからないため、横のつながりをつくり、すり合わせてほしい。私は地域のハナモモの育成状況をチェックしているが、市でも樹木の維持管理のために点検は行っているか。

事務局) 樹木の管理点検は市内の造園業者に公園や緑地の管理と共に年間委託している。

委員長) 造園業者の委託だけでは抜け落ちる部分を地域と協力しながらやっているとよい。また緑の基本計画が今年度末で中間年を迎える。事業や目標値の見直しや、このような維持管理の面も含めて今年度から来年度にかけて議論できたら良いと考えている。

委員) 遊具の更新をするとあるが、市民から意見を募るのか。最近の公園の遊具は安全だが面白くない遊具になっているため、遊具の設置については色々な意見を検討して欲しい。

事務局) 遊具の更新については基本的には同じ内容のものを新しくしている。ただ過去には近隣の小学校や保育園にアンケートを実施したこともあるようなので、参考にしたい。遊具の安全については設置する側の責任もあるため、慎重になってしまう部分ではある。

委員長) 緑化推進を進める観点からも教育分野など様々な分野と連携し、意見が募れるとよい。

委員) 何かトラブルがあった時に責任問題があるため、積極的な施策は行いにくいかもしれないが、利用者が楽しめる公園を実現できたらいい。

委員長) パーク PFI のように民間の知恵や資金を活かした公園の維持管理方法もある。全世代のニーズに合った公園は難しいため、対象の世代を絞った公園づくりも良いのではないか。

委員) 近所の公園も遊具が変わったことで利用する世帯が変わったように感じた。鞍流瀬川の飛び石は水位が高い時は小さい子どもには少し危ないが、小中学生はよく遊んでいるのを見かける。

委員) 矢戸川緑地の竹林は場所が分かりづらいため、もう少し周知の方法を考えてもらいたい。

事務局) 行政が外部に PR となると広報や市のウェブサイト、新聞を利用することが多い。もう少し多くの人に知ってもらう方法も考えなければならない。

委員長) 今行っている緑化政策を俯瞰的に見ながら大府市の長所をどこの世代をターゲットにしていくかを皆さんの意見を聞きながら深掘りできればと考えている。

○大府市緑の基本計画の実施状況、令和 6 年度事業計画を承認

4. 報告事項

(1) 第 19 回シビックガーデンコンテストの結果について【資料 4】

事務局) ---【資料に基づき説明】---

委員) 種から育てている人が多く、参加者は愛情を持って育てており、頭が下がる。

委員) 来年度で 20 回を迎えるが何か新しい施策を考えているか。

事務局) この件については皆さんから今後の会議でも意見を伺っていきたい。

委員) 浜松市でも似たようなコンテストを行っているようであるため、参考にするとよいのではないか。

(2) 交流会について【資料 5】

事務局) ---【資料に基づき説明】---

委員) 若い世代の方の参加もあり、楽しくできた。

委員) 市民向けに寄せ植え講座をもっとやってもいいのではないか。

(3) 矢戸川緑地 ～矢戸川竹林の小径～ の完成について【資料 6】

事務局) ---【資料に基づき説明】---

委員長) 近隣の小学校やコミュニティなどに情報提供はしているか。

事務局) 地域の回覧板やプレスリリースを利用して周知する予定。

委員) 広報や回覧板で周知したとのことだが、今日初めて知った。回覧板も利用している世帯が減っているように感じる。LINE は皆さんよく見ているため、市の LINE を利用した PR も考えた方がよいのではないか。広報も表紙などできるだけ目立つ掲載をされるようにして欲しい。

委員) SNS は今利用している人が多いため、行政でももっと活用できると良い。6 月 11 日にある講座は市外の人も参加可能か。

事務局) 可能です。

5. その他

次回の開催予定 (令和 6 年 9 月頃予定)

シビックガーデンコンテストの今後について

事務局) これまで 19 回行ってきたが、参加者数の伸び悩みや、参加者の固定化が課題となっている。次回の会議で新たな方向性を示したいと考えている。

委員) コンテストとなると順位が付くものになるので敷居が高く感じる。特に順位を決めず参加者に参加賞を渡すようにしてもよいのではないか。

委員) 優秀賞のような順位ではなく、参加者自身が見てもらいたいと思っているアイデアなどを評価する賞を複数設けるというのも面白い。